第６学年　国語科学習指導案

平成２９年６月７日（水）５校時
６年２組　男子１１名　女子１１名　計２２名
授業者　秋田　喜俊

１　単元名　　『投書デビューをしよう』
教材名　　「新聞の投書を読み比べよう」（東京書籍６年）

２　単元の目標

○投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や工夫を読み取ることができる。（関心・意欲・態度）
○投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえることができる。（C　読むこと　イ）
○書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのか自分の考えを明確にして読むことができる。（C　読むこと　ウ）
○投書の文章の構成を目的とともに理解することができる。（言　イ（キ））

３　単元について

（１）単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第５学年及び第６学年「C　読むこと」の指導事項イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」および、ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

本単元では、「C　読むこと」の言語活動例「イ　自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」を具体化した『投書デビューしよう』という言語活動を位置づける。ここで取り上げる『投書デビューしよう』は四つの投書を読み比べ、文章に書かれている書き手の工夫について読み取り、読み取ったことを活かしながら自分の考えを投書に書くというものである。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童が興味・関心を持ち、見通しを持って学習に取り組む必要がある。児童は、四つの投書を読み比べながら、投書の特徴をとらえ、書き手の主張や説得の工夫を読み取っていくだろう。自分が一番納得した投書を選び、なぜその投書に納得したのかを考え、理由や根拠を説明していく中で、投書の書き方のポイントを児童に気づかせていきたい。そして、自分が投書を書く際に、それまでに学習したことを活かし、読み手に自分の考えが伝わるように構成を工夫し、理由を明確した投書が書けることを目指したいと考えている。

（２）児童観

児童は、５年「新聞記事を読み比べよう」で書き手の意図を読み取る学習を行っている。６年「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、事実と意見の関係に注意しながら文章を読み、筆者の主張に対する自分の考えを書く学習を経験している。

今年度４月の全国学力調査の国語Ａ「読むこと」の領域においては正答率 75.2 という結果

で、他の２領域よりは高くなっている。また、小領域で見ると、「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むこと」においては正答率 81.4 となっている。しかし、個人の学習状況をみると、自分の考えを分かりやすくまとめ表現することや、理由や根拠を挙げながら文章を書くことに弱さがある。普段の学習の様子からも書くことや自分の意見を発表することに苦手意識を持ち、消極的な姿が見受けられる。また、教材として取り扱う「新聞」は、これまでの家庭学習で取り組んできた「見つめる目」とした、自分が選んだ新聞記事に対する意見や考えを書く学習に取り入れている。しかし、「新聞の投書」への関心は低く、実際に投書を読んだり、どんなことが書かれているかを知っている児童はごく少数である。したがって読み手を説得するための工夫を新聞の投書から読み取ったり、その工夫を生かして意見文を書くという学習が必要であると考える。

（３）指導観

第一次では、児童が興味・関心を持って学習が進められるように、自分たちと同じ６年生が書いた投書を紹介し、その投書を読んで気づいたことや考えたことを自由に出させる。そして、『投書デビューしよう』という単元のゴールのために、教材文にある四つの投書を読み比べ、投書の文章構成や書き方の工夫を見つけていくことを確認し、学習意欲が高まるような導入としたい。また、5 年生で学習した、新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ったことを想起させ、今回は投書に書かれている書き手の説得の工夫について読み取ることが大事な学びであるという前学年からのつながりも意識させる。

第二次では、投書①～④を読み比べながら、それぞれの投書について書き手の主張をとらえ、文章構成や説得の工夫を見つけていく。文章構成や書き手の主張を読み比べる際には、段落や内容のまとまりによって色分けをして投書の構成の特徴や主張の共通点や相違点に気づかせるようにしたい。そして、自分が一番納得した投書を一つ選び、その理由を説明する。友だちと意見交流することを通して、自分が選んだ投書の特徴や説得の工夫を様々な観点から再確認したり、考えを深めさせていきたい。また、違う投書を選んだ友だちの理由を聞くことにより、他の投書の特徴や説得の工夫を知ることで自分の考えを広げ、より深い学びにつなげられる展開にしていきたい。前時までに学習したことをもとに、自分が投書を書く際に活用できる説得の工夫を、友だちとの意見交流からさらに深め、追求していくことを意図している。

第三次では、これまで学習したことを生かして、実際に新聞に出す投書を書く活動を設定する。その際、自分の考えがしっかりと伝わるように文章構成を意識させる。これまでに学習した、読み手が納得するような工夫を意識して書けるようにしていく。どんな話題について書いていくかを見つけるのが難しい児童には、小学生が実際に書いた投書などを紹介したり、友だちが書こうとしている話題を紹介しながら自分が書く話題を決定させるようにしていきたい。そして、自分の思いを表現することや友だちの書いた投書を読み合うことで、自分の考えさらに広がったり深いものになったりすることを児童に実感させたい。今回の学習を通して、普段の生活の中にある出来事や話題、情報に対して児童自ら様々な観点から考え判断できる主体的な行動や学びにつながるものにしていきたい。

４．単元構想図

● **つけたい力に向けた言語活動**　四つの投書を読み比べ、書き手の意見や工夫を読み取り自分でも投書を書く。

児童の実態

○自分の考えを積極的に書くことはできるが、分かりやすく表現することに課題がある。

○理由や根拠を挙げながら文章を書くことに弱さが見られる。

本単元で児童につけたい力

◎構成の理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ書き手の説得の工夫をとらえる力。【Ｃ（１）イ】

○書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのか読み取り、自分の考えを明確にして読む力。

【Ｃ（１）ウ】

単元の評価規準

《国語への関心・意欲・態度》

①投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や工夫を読み取ろうとしている。

【関心・意欲・態度】

《読む能力》

①構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、書き手の説得の工夫をとらえている。

【Ｃ（１）イ】

②書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのか読み取り、自分の考えを明確にして読んでいる。

【Ｃ（１）ウ】

《言語についての知識・理解・技能》

①文章を読み、筆者が用いている文章構成について理解している。

【言　イ（キ）】

学習の流れと評価計画（全８時間）

主体的な学び

第一次 1（導入）

○学習課題をつかみ、見通しを持つ。1【関①】

・実際に６年生が書いた投書を読み、投書への興味・関心を持つ。

・見つけた書き方の工夫を使って投書を書くというゴールを確認し、学習意欲を持つ。

第二次 3（展開）

対話的な学び　深い学び

○投書①～④を読み比べ、それぞれの投書について書き手の主張をとらえ、構成や説得の工夫を見つける。　3

・四つの投書の文章構成を考える【読①】

・四つの投書の意見や主張と、その理由や根拠をとらえる【読①】

本時

・四つの投書から、自分が納得するものを選んでその理由を説明する。【読②】

対話的な学び　深い学び

第三次 4（活用）

○投書に書く内容を考え、投書を書く。4

・投書に書くことを決めて自分の意見をまとめ、構成を考え、読み手に伝わるように投書を書く。【読②】【言①】

・推敲したいところを伝え合い、文章を見直して投書を仕上げる。【読①】

○単元の学習をふり返る。

・投書を読み合って感想を伝え合い学習をふり返る。

【読②】【関①】

並行読書（なし）

５．評価規準

Ｂ　概ね満足できる状況

◆自分が納得した理由として、投書の言葉を挙げて読んでいる。

投書④には、どんなスポーツでも厳しい練習に自分を追い込み努力しているから、勝つこともできるという部分がぼくも同じ考えだからです。

Ａ　十分満足できる状況

◆自分が納得した理由として、投書の言葉と書き手の説得の工夫を見つけて読んでいる。

投書④には、どんなスポーツでも厳しい練習に自分を追い込み努力しているから、勝つこともできるという部分がぼくも同じ考えだからです。さらに、メダリストの言葉を引用して書いているところにも納得したからです。

６．本時における研究テーマとのかかわり（身につけさせたい資質・能力）

四つの投書を読み比べ、自分が納得した投書を選び、その理由を説明する力

主体的な学びにつながる「めあて」と「振り返り」の関連

・どの投書に納得したかについて自己決定し、なぜ自分が納得したのかを主体的に説明させる。また、自分の変容を意識した振り返りを書かせる。

深い学びへ向かうための発問・指示の工夫

・指　「自分の考えに友だちの意見を取り入れて赤鉛筆で書きくわえて下さい。」

・発「それぞれの投書には、読み手を説得するためにどんな工夫がありますか。」

軸となる言語活動

○文章構成の工夫や読み手を説得させるための工夫から、自分が一番納得した投書を選びその理由について話し合う。

思考・判断

・読み手を納得させるためにどのような理由や根拠を挙げているか、その工夫について考える。

表現

・自分が納得した理由や根拠を説明し、友達の考えも聞きあう。

対話的な学びを実現するための工夫や手立て

・自分が納得した理由や根拠を明確にし、友達との話し合うことで、自分と同じ考え方や違う考え方に気づかせる。

・同じ投書を選んだグループで伝え合うことで、書き手の説得の工夫が明らかになっていく。

７．本時の学習（４／８）

第二次　３時間目

（１）身につけさせたい資質・能力　　自分が納得できる投書を一つ選び、納得した理由を説明することができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な指示指、主な発問発
見通す	１．単元のゴールを確認する。 ２．本時の学習のめあてをつかむ。 めあて　自分が納得できる投書を選び、その理由を伝え合おう。	○言語活動を確認し、ゴールを確認する。
思考し深める	３．どの投書に納得したのか、黒板にネームプレートを貼ることで、自分の考えを全体に知らせ、納得した理由や根拠について友達と意見交流をする。【グループ】 ・同じ投書を選んでいるのに、理由が違うな。 ・自分が選んだ理由と似ているな。 ４．グループでの話し合いのあと、友達の考えを赤鉛筆で書き加える。【個人】 ５．自分が納得した理由を発表する。【全体】 ・きつい練習だと嫌になる。 ・続けることに価値。 ・限界まで頑張って上手になるスポーツ。 ６．投書①～④の説得の工夫を考える。【全体】	指「同じ投書を選んだ友だち同士で、選んだ理由を伝え合いましょう。そのとき必ず、ノートに友だちの意見をメモして下さい。」 ○納得した理由や根拠を明確にした上で、話し合いができるようにしていく。 ※自分の考えと同じところや違うところに気づかせる。 指自分の考えに友達の意見を取り入れて赤鉛筆で書き加えて下さい。 発「なぜ、その投書に納得したのですか？」 ☆文章構成や書き手の工夫から、自分が一番納得した理由や根拠を挙げて伝えている。【読む②】（発言、ノート） 発「それぞれの投書には、読み手を説得するためにどんな工夫がありますか。」 ○それぞれの投書には、読み手を説得するような書き方の工夫があることを捉えさせる。
まとめる	７．学習のまとめをし、振り返りを書く。 ・今日の振り返りを発表する。【個人】→【全体】 家庭学習 投書に書くことを決め、ノートに書いてくる。	指「今日の学習の振り返りを書きましょう。」 ○代表に発表させる。 ○次時の予告をする。